

科目名	プロフェッショナルへの道Ⅰ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	遠藤 直美
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日1限 月曜日2限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
ヘアメイク業界の理解を深め、社会人として必要な教養・マナーを学び、現場実習に活かすことができる							
〈教員経歴〉 美容業界で活躍後、本校に従事している							
【授業を通じての到達目標】							
美容のプロになるために必要な業界知識や流れを理解し、ヘアメイクの分野に合わせたビジョンを組み立てることが出来る 目指すヘアメイク分野の業界を知り、方向性を見出し、自主的に行動できるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
毎授業時にteams共有				毎授業時にteams共有			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	教務部長挨拶・入学式を終えて振り返りと目標設定・講話受講のマナーについて・ITリテラシーテスト (入学式を終えた後の振り返りから、一人ひとり新たな決意の確認をする。また、クラス内でシェア・発表を行い、お互いを認め合うことを学ぶ)						
2	ヘアメイクの仕事・業界を知る①(ヘアメイク分野の業種について学び、調べ、発表し、業界についての理解を深める)					5点	
3	サポートアンケートの実施・トラブル回避講習(今後起こり得るトラブルについて学び、考える)						
4	美容業界について知る(美容分野の業種を調べ、業界についての理解を深める)					5点	
5	自己理解・他者理解を深める(思考ゲームを通して他人の考え・価値観の違いを学ぶ)						
6	担任面談(指定期日に担任との面談を行い、個人目標を明確にする)						
7	中間テスト(美容業界・ヘアメイク業界についての知識をアウトプットし、より理解を深め、復習が出来る)美容業界について知る(美容分野の業種を調べ、業界についての理解を深める) チーム実習グループ決め					20点	
8	担任面談(指定期日に担任との面談を行い、個人目標を明確にする) JESCメイク検定筆記対策①						
9	グループ実習(グループ作品作りのデザインをチーム全員で思案し、コンセプトシートに記入できる)						
10	JESCメイク検定筆記対策② 現場実習・就職活動に対応できる「大人の言い回し」を学ぶ						
11	JESCメイク検定筆記対策③ 現場実習について						
12	自分の「好き」について知る・調べる・作る(デザインの分布を学び、理解する)						
13	自分の「好き」についてにプレゼンする(デバイスを使用し、効果的に発表する)					10点	
14	1～13回目授業の振り返り授業(全授業の振り返りを行い、復習をする)						
15	定期テスト(60点満点)・後期に向けて(前期の振り返りをし、自分の成長について考える)					60点	
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	現場トレーニングⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	赤木 英二
学科	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日1限 月曜日2限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
多方面で活躍するヘアメイクアーティストから、実際の仕事で活用することができる技術を習得する							
＜教員経歴＞ 美容師資格取得後、ファッションショーやCMなど幅広い分野でヘアメイクを手掛ける企業に従事。その後ヘアメイク事務所の取締役に就任。かつ技術者として様々なヘアメイク現場で活動をしている。							
【授業を通じての到達目標】 ヘアメイクアーティスト・ヘアメイクアシスタントに必要な知識・技術を習得する ヘアメイク現場の実践イメージを掴むことが出来る							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
毎授業時にteams共有							
回	科目	授 業 概 要				テスト 配点	
1	ブロー演習	ウィッグでのブロー・ドライヤーの当て方 ブラシの使い分け・メンズドライの習得					
2		相モデルで実践ブローでスタイルを作る事を習得					
3		シャンプーのお濡らしから手の動かし方まで習得					
4		シャンプーからブロー、フィニッシュワークまでの流れを習得					
5	ネイル演習	ネイルの技術形態を理解する ネイルケアの用具・用材と使用目的を理解する フットスティックを2種類に分けてサイズと用途を見える コットンスティックが用途に合わせた大きさで作成することが出来る					
6		手指消毒の方法を見え実践できる					
7		対面でのファイリング～カラーリングまでの手順と ブラシワークを習得する					
8		テーブル無し(立膝)での実践方法を習得する テスト:皮膚に付着がなくカラーリングができる					
9	メンズスタイリング	メンズのヘアスタイル理解を深める					
10		媒体、シーン別で(動画・スチール・LIVE)求められるスタイリングスキル を理解する					
11		ヘアスタイリング剤の効果、用途を理解し、ヘアスタイル毎に適した 使用方法を習得する					
12		ウィッグでを使用しメンズヘアセットを仕上げる事が出来る					
13	作品 撮影	デモンストレーションから作品撮影のポイントを理解する					
14		グループ撮影を実践し、1つの作品を仕上げる事が出来る					
15		撮影作品のフィードバックを受け、多角的なポイントの見方を習得する					
【特記事項】				【評価について】 ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	ベーシックメイクⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大瀬 順子
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日1,2限 水曜日3,4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
スキンケアからフルメイクまで、基礎的な手順を演習を通じ習得する。							
〈教員経歴〉							
外資系化粧品ブランドで13年以上メイクスキル指導やメイクアップアーティストとして実務。ファッションショーのバックステージやMV、CM等のメイクにも携わる。メイクアップアーティストとして実務しながら美容師免許を取得し、現在はメイクだけではなくヘアメイクも行っている。それらの実務経験をもとに、現在のヘアメイク現場で求められる最新の技術・知識を提供する。							
【授業を通じての到達目標】							
JESCメイク検定合格を目指し、メイクアップを行うための衛生や基本の理論・技術を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
Basic Make Up、メイク道具一式							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	授業内容の確認と教材確認、テーブルセッティングとスキンケア手順を実践し習得する						
2	スキンケア手順の復習と、ベースメイクの手順や技術を学び習得する						
3	スキンケア手順からベースメイクの復習と、リップのプロポーションを理解し技術を学ぶ						
4	スキンケアからベースメイク、リップを復習しアイブロウのプロポーション理解し技術を学ぶ					小テスト 10点	
5	スキンケアからベースメイク、リップ、アイブロウを復習しアイメイクの技術を学ぶ						
6	1～5までの復習 アイメイクまでの一連の手順を習得する 中間テスト練習						
7	スキンケアからアイメイクまでの手順と技術 中間テスト					中間テスト 20点	
8	ハイライト、シェーディング、チークの技術を学びフルメイクが出来るようになる						
9	タイムトライアル フルメイク 45分 時間内にフルメイクができるようになる						
10	タイムトライアル フルメイク 40分 時間内にフルメイクができるようになる						
11	タイムトライアル フルメイク 35分、30分 時間内にフルメイクができるようになる 服装規定						
12	JESC検定 模擬試験 フルメイク30分 検定と同じ規定で実践する					小テスト 10点	
13	クレンジング、スキンケアの種類を知り、クレンジングとマッサージ手法を学ぶ						
14	定期テスト課題の練習をし、技術の向上と習得する ～模写～						
15	定期テスト課題を時間内に完成させる					定期テスト 60点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	ベーシックメイクⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐々木 さをり
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日1,2限 水曜日3,4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
実際に現場で働いているヘアメイクアーティストからメイクの知識、技術を学ぶ。色、形、質感、ツール、ブラシワーク等、メイクを施すにあたり、必要な専門知識を基礎から知ることによって様々なデザインを円滑に美しく施術する技術を習得する。							
＜教員経歴＞ 化粧品販売経験、フリーランスとしてメイク施術に従事している。また、メイクアップカラーアドバイザー認定講師の資格を持つなど、カラーアナリストとして活動している。その経験をもとに、現場で求められる最新の技術・知識を提供する。							
【授業を通じての到達目標】							
メイクの基礎技術だけでなく、スチール撮影や、コンテストに向けて必要な応用的な技術、デザイン力、バランスを習得する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
メイク道具一式							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	色の知識と基礎技術を習得する						
2	色の知識と基礎技術を習得する						
3	色の知識と基礎技術を習得する						
4	形の知識と基礎技術を習得する					小テスト10点	
5	形の知識と基礎技術を習得する						
6	中間テスト練習 色 形を活かした技術を習得						
7	中間テスト 色 形の理解度、技術のレベルを確認					中間テスト20点	
8	色の作り方を習得する						
9	質感の知識と基礎技術を習得する						
10	質感の知識と基礎技術を習得する						
11	質感の知識と基礎技術を習得する						
12	色・形・質感の組み合わせ方を習得する					小テスト10点	
13	色・形・質感の組み合わせ方を習得する						
14	色の組み合わせ方を習得する						
15	定期テスト 補色模写の理解度、技術のレベルを確認					定期テスト60点	
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	ベーシックヘアⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中村 好沙
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
				曜日・時間	木曜日1,2限 木曜日3,4限		
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
実際に現場で働く講師よりトレンドを学びながら基礎の土台を固める。 ウィッグを用いてはじめての技術を練習した後、プロフェッショナルの技術を身に付ける為の基礎技術と理論を習得する。 〈教員経歴〉 美容師を経て、フリーランスとしてセットサロンに所属しながら声優、舞台、ショー、イベント、ブライダルのヘアメイクに従事。セットサロンでは15年以上スタッフ育成の講師も務める。その経験をもとに、現在のヘアメイク現場で求められる最新の技術・知識を提供する。							
【授業を通じての到達目標】							
ベーシックなスタイルからトレンドのスタイルまで幅広く基礎技術を身に付け、サロンスタイルや現場実習に対応出来る力を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ヘア教材一式							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	道具の名前や頭の名称などの専門用語を学ぶ セッティングをしてブロッキング・スライス・三つ編み・編み込みを実践してウィッグに慣れる						
2	流行りの小技テクニックを習得してスタイルを完成させる						
3	流行りの小技テクニックを習得してスタイルを完成させる					小テスト10点	
4	ピンの特性を理解する						
5	ピンニングの技術を習得する						
6	1～5で習得した技術を用いてスタイルを完成させる 中間テスト練習						
7	1～5で習得した技術を用いてスタイルを完成させる					中間テスト20点	
8	理論を学び、コテ巻き(フォワード、リバーズ)を習得する						
9	コテ巻きをして、編みおろしスタイルを完成させる						
10	コテ巻きでベースを作り、お団子スタイルを完成させる						
11	コテ巻きでベースを作り、モヒカンスタイルを完成させる					小テスト10点	
12	バリエーション巻きを習得し、流行スタイルを完成させる						
13	ストレートアイロンの技術を習得し、流行スタイルを完成させる						
14	1～13までの技術を用いてスタイルを完成させる 定期テスト練習						
15	1～13までの技術を用いてスタイルを完成させる					定期テスト60点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	ベーシックヘアⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	赤木 英二
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日1,2限 木曜日3,4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
現場でのヘアメイクを想定した基礎のヘアースタイルについての技術と理論を習得する。							
＜教員経歴＞ 美容師資格取得後、ファッションショーやCMなど幅広い分野でヘアメイクを手掛ける企業に従事。その後ヘアメイク事務所の取締役に就任。かつ技術者として様々なヘアメイク現場で活動をしている。							
【授業を通じての到達目標】							
実際に人に施すヘアを想定し、相モデルを中心とした実技授業にて、基礎技術と知識、ヘアプロダクト(スタイリング剤)の使用方法を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ヘア教材一式							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	ハンドドライ、ブロー、ストレートアイロンの技術を習得する						
2	ハンドドライ、ブロー、ストレートアイロンの復習 一束ゴム結びの技術を習得する						
3	ハンドドライ、ブロー、ストレートアイロン、一束ゴム結びの復習 ゴム隠しの技術を習得する					小テスト 10点	
4	1～3までの復習 パートバリエーション、スライスに合わせたコームの使用方法を習得する						
5	1～4までの復習 ブレイド技術を習得する						
6	ブレイド×一束 中間テスト練習						
7	ブレイド×一束 中間テスト					中間テスト 20点	
8	ダウンスタイル根本ブロー、ストレートアイロン毛先カールの技術を習得						
9	ダウンスタイル根本ブロー、コテ技術の習得						
10	ハーフアップスタイル、ヘアスタイルに合わせたブロー、ピンニングの技術を習得						
11	モデルに合わせたハーフアップスタイル、顔まわりのつくりこみ 前回の復習					小テスト 10点	
12	編み込みバリエーションの習得 (くずし、タイトロープ、タイトロープくずし)						
13	モデルに合わせた編み込みバリエーションスタイル 似合わせと編み込みバリエーションの復習						
14	定期テスト練習						
15	定期テスト					定期テスト60点	
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	オリエンテーション・導入教育 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	遠藤 直美
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 集中
						曜日・時間	指定期間
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
学年全体の学習イメージをつけることができる							
【授業を通じての到達目標】							
年間のスケジュールが理解できる 授業概要が理解できる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
プリント配布							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	【授業単元】 スケジュール・ルール確認・職員紹介・講師紹介						
2							
3							
4							
5							
6	【到達目標】 年間のスケジュール管理ができるようになる 学則・内規等のルールを理解し、遵守の意識を持つ 学科職員や学校組織の構成を知る 学校の校舎や教室の使い方を理解する						
7							
8							
9							
10							
11	【授業単元】 時間割・授業概要理解 就職活動について 教材理解 教科書理解						
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	アシスタントプログラム	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐藤 直雅
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 集中 金曜日1限～4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
ヘアメイクアシスタントとしての知識・スキルを学ぶ。 ・ヘアメイク業界の仕組み ・ヘアメイクアシスタントとして現場で役に立つためのスキル ・ヘアメイクが関わる媒体の知識 ・就職活動のサポート <教員経歴> ヘアメイク事務所、株式会社ビーサイド代表。 ヘアメイクのマネージメントオフィスとして33年前に設立し、20名程のヘアメイクアーティストが在籍。自身もヘアメイクアップアーティストとして広告、音楽、芸能、出版、ブライダル業界等で幅広く活躍しながら、後進の育成にも力を注いでいる。そして、在学中からヘアメイクアシスタントを育成する教育及び、ヘアメイク現場経験ができる機会を与える。							
【授業を通じての到達目標】							
ヘアメイクアシスタントとして現場で臨機応変に動けるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
授業毎に資料配布							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	自己紹介						
2	業界理解 ヘアメイクについて						
3	道具見せ・お直しバッグ中身説明						
4	ヘルプについて・デモンストレーション						
5	現場でのネイル・ハンドマッサージについて						
6	広告業界について						
7	現場実習について						
8	音楽業界について						
9	業界用語について						
10	テレビ業界について						
11	映画・ドラマ業界について						
12	芸能界について						
13	作品撮影について						
14	振り返り・就職活動について						
15							
【特記事項】				【評価について】			
				●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	着物着付け演習	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 由香
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期 集中
						曜日・時間	金曜日1限～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
基礎の浴衣から小紋の着付までを一人で着ることができるようになる。 自装を器具等を使用せず、どのような現場でも通用する技術を習得する。 〈教員経歴〉 着物着付け師・着物講師指導にあたり、自らも和装ブライダルの花婿・花嫁の着付けを手掛ける教員が冠婚葬祭の基礎知識をわかりやすく解説し、現代のニーズに応えられる上質の和装着付けを実施する。							
【授業を通じての到達目標】							
一人で着る着付けが出来る→小紋の着付けと名古屋帯の一重太鼓の帯結びができるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	着付け前の着物の準備の仕方を覚える(小紋の着付け)						
2							
3							
4	帯結び名古屋帯の準備の仕方から一重太鼓の結び方					中間テスト 20	
5							
6						小テスト 20	
7	帯あげ帯締めまで鏡を見ないでできるようになる						
8						定期テスト 60	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	相互支援演習Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	遠藤 直美
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 集中 金曜日1限～4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
学校行事に向け、クラス全体でファッションを考え、競技に取り組むことで、協調性を養い、クラス・学科間の相互支援関係を構築する							
＜教員経歴＞ 美容業界で活躍後、本校に従事している。							
【授業を通じての到達目標】							
・競技参加種目を決める ・クラスごとに衣装のコンセプトを決める ・当日を楽しみ、仲間を応援する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
資料・教材は毎授業時に配布							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	【授業単元】 参加競技決定 役割・委員決め 衣装決定						
2	【到達目標】						
3	クラス内で役割を決め、参加する競技を決める クラスごとにコンセプトを基に衣装を決める						
4	小テスト・中間テスト:事前準備の積極性にて評価 40点満点						
5	【授業単元】 行事当日 各種目に参加する						
6	【到達目標】						
7	各自与えられた役割を基に、競技に参加し、行事を運営する。 応援を通し、相互支援関係を構築する。						
8	【定期テスト】 当日の出席・競技の積極性・応援の積極性等にて評価60点						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】 ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	メイク技術理論	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大瀬 順子
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期 集中
						曜日・時間	金曜日1限～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
メイクの基本技術を習得する検定に合格する為に、集中講座を開講する。 〈教員経歴〉 外資系化粧品ブランドで13年以上メイクスキル指導やメイクアップアーティストとして実務。ファッションショーのバックステージやMV、CM等のメイクにも携わる。メイクアップアーティストとして実務しながら美容師免許を取得し、現在はメイクだけではなくヘアメイクも行っている。							
【授業を通じての到達目標】							
メイクアップにおける技術理論を理解し、JESCメイク検定に合格できるレベルに達する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
テキスト							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	【授業単元】 身だしなみ、道具、立ち位置、ベースメイクにおける理論						
2	【到達目標】 テキストにそって、身だしなみ、道具名称、用途、ベースメイクにおける技術理論を練習問題を解きながら習得する						
3							
4							
5	【授業単元】 ポイントメイクにおける理論、皮膚構造、顔面骨格の知識						
6	【到達目標】 テキストにそって、ポイントメイクにおける技術理論や皮膚構造、顔面骨格の基礎知識を練習問題を解きながら習得する						
7							
8							
9	【授業単元】 JESCメイク検定を受験する						
10	【到達目標】 評価を受け習得度を確認する						
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】 ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	業界研究Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	遠藤 直美
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 集中 金曜日1限～4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
現場のヘアメイクの方からやりがいやトレンド、仕事の内容を伺い、将来の仕事のイメージをつける							
【授業を通じての到達目標】							
自身が将来進みたい分野の仕事のイメージつけることができる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
資料・教材は毎授業時に配布				授業によって自宅課題あり			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(事務所)						
2	【到達目標】 事務所で働くヘアメイクのイメージをつけることができる 仕事のやりがいなど、学んだことを言語化して振り返ることができる						
3	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(スチール・広告)						
4	【到達目標】 スチールや広告等静止画で活躍するヘアメイクの仕事のイメージをつけることができる 仕事のやりがいなど、言語化して振り返ることができる						
5	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(映像系)						
6	【到達目標】 映画・ドラマ・CMなどの映像系で活躍するヘアメイクの仕事のイメージをつけることができる 仕事内容などを言語化して振り返ることができる						
7	【授業単元】中間テスト ヘアメイク業種・仕事内容・分野・働き方の振り返り						
8	【到達目標】 今まで学んだ内容を振り返り、やりがいなどをプレゼンテーションすることができる						
9	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(ブライダル)						
10	【到達目標】 ブライダルヘアメイクで働くことのイメージをつけることができる 仕事の内容などを振り返り、言語化することができる						
11	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(フォトスタジオ)						
12	【到達目標】 スチール現場実習時のカメラ前アシスタントの動きや流れを理解出来る フォトスタジオで働くヘアメイクの仕事を理解する 仕事を振り返り、言語化することができる						
13	【授業単元】 ヘアメイクの働き方(サロン)						
14	【到達目標】 美容サロンで働くヘアメイクの仕事イメージすることができる 仕事を振り返り、言語化することができる						
15	【授業単元】定期試験 振り返り 【到達目標】ヘアメイクの仕事をつとめる視点で判断し、自分にあった職種をイメージすることができる						
【特記事項】							
【評価について】							
●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施							
●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)							
●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。							

科目名	デザインイラスト演習Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐々木 さをり
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 集中 金曜日1～4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する） 多方面で活躍するヘアメイクアーティストから、実際の仕事でも活用することができるフェイスチャート(メイク)とイラスト(헤어)の描き方を基礎から教わることで、様々なデザインをより明確に第三者に向けて伝えるためのイラスト技術を習得する。 〈教員経歴〉 化粧品の販売や、フリーのメイクアップアーティストとして活躍している。メイクアップカラーアドバイザー認定講師の資格を持つなど、カラーアナリストとしても活躍している。 その経験をもとに現場で求められる最新の技術・知識を提供する。							
【授業を通じての到達目標】							
各授業デモンストレーション時のメモと、スチール撮影、コンテスト時に使用するコンセプトシートの描き方(電子&メイク道具)を習得し、様々な業種、アプローチ方法の選択肢を広げる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
i-pad、シャーペン、消しゴム、アイシャドウパレット、リップパレット、アイブロウペンシル、アイライナーペンシル、リップペンシル、リキッドアイライナー、コットン、綿棒、ティッシュ、メイクブラシャー式、シャープナー							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	メイクフェイスチャートの描き方を習得する ・フェイスチャート、イラストの描き方(電子、紙)基礎を習得 ・空間の構成 ・遠近法について						
2							
3							
4							
5							
6	電子イラストの描き方を習得する(授業デモンストレーションの画像メモアイデア) 総合小テスト					総合小テスト40点	
7	・iPadデバイスを使用した道具の使い方を理解する						
8	・構図の種類を理解する						
9	・明暗と彩度・立体構図を理解する						
10	復習+デザインコンセプトシートの描き方 フォトコラージュにて自分の好きを知る ・フェイスチャート、イラストの描き方(電子、紙)応用を習得 ・デッサンの学びを基に、フォトコラージュを作成する						
11							
12							
13							
14							
15	メイクフェイスチャート 定期テスト					定期テスト60点	
【特記事項】				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点)/D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名	総合演習 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	遠藤 直美
学科・コース	ヘアメイク科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 集中 金曜日1限～4限
【学習の目的】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）							
2年生の学内コンテストを見学し、自身の1年後を具体的に想起させる							
【授業を通じての到達目標】							
コース選択後の自分と照らし合わせることで学習に対するモチベーションを高める							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	【授業単元】オリエンテーション 【到達目標】コンテスト見学の目的を理解する、本日の競技内容の説明						
2	【授業単元】コンテスト見学 【到達目標】各分野に分かれて2年生の競技を見学する						
3	【授業単元】コンテスト見学 【到達目標】各分野に分かれて2年生の競技を見学する、表彰式を見学し達成感について考える						
4	【授業単元】コンテスト見学の振り返り 【到達目標】2年生のコンテストを見学し感じた事を書き出すことにより客観的に自分の考えを理解する						
5	【授業単元】オリエンテーション 【到達目標】本日の競技内容の説明						
6	【授業単元】コンテスト見学 【到達目標】各分野に分かれて2年生の競技を見学する						
7	【授業単元】コンテスト見学 【到達目標】各分野に分かれて2年生の競技を見学する、表彰式を見学し達成感について考える						
8	【授業単元】コンテスト見学の振り返り 【到達目標】2年生のコンテストを見学し感じた事を書き出すことにより客観的に自分の考えを理解する						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】				【評価について】			
				●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施			
				●評価 A評価（90～100点）/B評価（80～89点）/C評価（70～79点） D評価（60～69点） E評価（出席不良・評価資格喪失）/F評価（0～59点・不合格）			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			